

第4回日本安全性薬理研究会学術年会 を終えて

この度、第4回日本安全性薬理研究会学術年会を2013年2月15日及び16日に開催し、おかげさまで国内外から314名と多数の参加をお迎えし盛会のうちに終了いたしました。

「挑戦し続ける安全性薬理研究 新たな戦略と展望」をメインテーマとし、安全性薬理研究の核をなす循環/中枢評価を中心に構成した内容につきましても、アンケート結果から裏づけられるように非常に満足のいくものであったと思います。また、今回から新たに一般演題における学術年会 JSPS 優秀発表賞(受賞者:岡井 佳子 武田薬品工業株式会社)および企業展示におけるスタンブラリーの企画を実施しましたが、本研究会の活性化に繋がったと思います。

安全性薬理研究は、優れた医薬品を医療現場へと橋渡しすべき研究であり、最終的に個体(患者)レベルに還元できなければなりません。古典的な薬理技術と最先端技術を融合させ、臨床研究とのギャップを埋めることが可能な統合的な非臨床研究により、創薬に貢献することが安全性薬理研究者の使命でもあります。今回の学術年会で得られた情報などが、この使命を果たすための一助となれば幸いです。

次回の第5回日本安全性薬理研究会学術年会は、田澁 弘行(大日本住友製薬株式会社)年会長を中心に、2014年2月14日及び15日に、これまでと同様に東京(東京大学 弥生講堂)で開催する予定です。最新の学術年会に関する情報は、ホームページ(<http://www.j-sps.org/>)を参照していただけたら幸いです。

最後になりましたが、教育講演、海外招待講演、シンポジウム、ランチョンセミナー及び一般演題の発表を頂きました先生方、ご参加頂きました皆様、ご協力頂きました多くの関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

第4回日本安全性薬理研究会 学術年会長
第一三共株式会社 安全性研究所
千葉 克芳